

平成28年度第1回 兵庫県立図書館協議会会議録

1 日時及び場所

平成28年11月1日（火） 10:00～12:00

兵庫県立図書館仮設庁舎 2階会議室

2 出席者

協議会委員 尼川委員 廣岡委員 石堂委員 岩木委員 尾崎委員
児玉委員 多田委員 野田委員 森玉委員

教委事務局 社会教育課 前川副課長 谷主任指導主事

県立図書館 善部館長 田中次長 杉谷総務課長
谷利用サービス課長 井上ふるさと・資料課長

3 仮設図書館視察

2班にわかれ、館内各階を視察

4 議事

(1) 平成27年度県立図書館事業実績

次長より資料1に沿って平成27年度の事業実績を報告

○ 委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) 資料1ページにある蔵書の受入れ数19,228冊のうち、新刊書の「購入」数が4,280冊というのは、この規模の図書館としては少なすぎる。

蔵書構成や出版点数から考えて、これだけしか新刊書が購入できていないというのは、寄贈の中に必要な本が含まれているとはいえ少ない。

今の最先端の知識や見識が反映されている新刊書がこれだけ少ない購入数であることについて、我々委員としては真剣に受け止めていくべきことだと思う。

今の時代に出版されている図書が十分に購入できていないということは、県立図書館として、将来的にコレクションに穴があいてしまうことになる。

特に県立図書館で収集対象とする図書は、発行部数が少ないものが多く、後で購入しようとしても絶版になっている可能性が高い。

何とか図書購入費を増やせるよう委員として応援や働きかけを行っていかねければならない。

(委員) 資料2ページの「②資料デジタル化の推進」では、平成22、23、25年度とありこれが実施された年度で、デジタル化を毎年度進めていっているわけではないということだと思うが、今後はどうするのか？

(図書館) 県立図書館としてデジタル化は、資料の保存と貴重性から郷土資料を中心に進めていきたいが今は予算化が難しい。これまで、予算化ができた時に実施してきた。今後も予算化に努めていきたい。

(2) 平成28年度県立図書館事業実績

次長より資料2に沿って平成28年度の事業実績を報告

○ 委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) 28年度の半分が過ぎたところで、今年度は、移転があった特別な年度だが、従来どおり計画したことを実施してきているということであるが、今後、残りの期間、仮設ということで課題もあるだろうが、有利なこともあるはず。

(委員) 仮設図書館は、よい場所にあるので、この1年の間に人を呼び込むことができる何かがあれば、明石公園内へ戻るときに利用者を引き連れて行ける。

その何かは難しいところではあるが、子育て支援を行っている立場から提案すると、今、潜在保育士に対する講座を行っており、全5回中5回目にはハローワ

ークの方に来ていただいて保育士の求人を紹介してもらい、受講者10名中5名の復職につながったという例がある。館内視察中に、別の委員が、法律書関係のコーナーを作っているなら具体的な相談先を案内する資料も同じコーナーに提示しては、という提案をされていたが、さらに進めて、弁護士や司法書士に来てもらう日（事業）をつくり、直接相談できる場を設けると人を呼び込めるのではないかと思う。

(委 員) 本はあらゆる課題の解決に役に立つもので、実際に利用者の問題解決にどうつなげていけるかの提案を図書館がやるのも悪くない。

(委 員) 今、読書週間であるはず。しかも、今年は70周年の節目の年を迎えているが、県立図書館では、そのことに対しあえて取り組みはされていない様子である。他に年間を通して色々な事業は実施されてはいるが、読書週間へのアプローチがあってもよいと思う。

この半年は、図書館機能としては休館もあったが、講座や企画を継続して実施している中で、狭いスペースで工夫したり、駅が近くになったことでこれまでとは違う層の利用者を得るという貴重な経験を蓄積していると思う。新しく生まれ変わった図書館でこの蓄積を活かしていつてもらいたい。

(委 員) 県立図書館に長く関わる中で見てきた大きな変化として、外へ出かける活動が増えてきていることがある。出前講座や学校サポート、巡回展示など。子ども読書活動も全県的にやっており、各地域と県立図書館が関わりを持つことになっている。これらは、仮設図書館であっても継続してやることのできる活動だと思う。

それと同時に、図書館としてのもう1つの柱に、利用者に来てもらうための活動がある。サービスの質をあげ、利用者のニーズに応えることができる、県立でなければできないような活動を本来の活動として行っていく必要があるのではないかと考えるが、どうか。

(委 員) 市立図書館の方が身近で、(リタイアした)自分と同年代の利用者で溢れているが、休日には子ども連れの利用者が多く、幼い時から本を読んでいる子は高学歴の子が多いといったメディアの報道も大きく影響し、図書館に対する追い風になっていると思う。

県立図書館は、今日が平日だとしても市立と比べ来館者が少ない。

仮設の利便性が来年にはなくなり、行きやすさがなくなるだろう。(利用者を増やすには)考え方を考えていく必要があるのではないか。

人口の多いところに立地しているのだから、呼び込める可能性はあると思う。

(委 員) ホームページのアクセス数が減っているようだが、「仮設」でサービス内容が変わっていることから、(従前とは)仮設用のホームページの内容を変えたと思うが、蔵書検索(とその利用状況)に関しては変わっていないと思うので、コンテンツに対する閲覧者が減少しているのだと思う。

活動は色々行っているのだから、県立の意義を示していくためにもコンテンツ面でアピールしていくことが必要では。

地域の図書館を利用する地元の人が多くおり、その地域の図書館を支えていくのが県立図書館の役目だと思う。各地方自治体の図書館職員もホームページはよく見られているはずで、ホームページのアクセス数を増やすことで県立の意義を広めていくことができると思う。

(委 員) 県立図書館のホームページは、トップ画面に、どんな情報があるのだろうと引込む力が弱いと思う。ホームページを見る人は何か情報を得たいと思っている。

実際に来られる人を誘導するホームページを目指すべき。最近では、まずホームページを見て調べてから現地に行く人が多い。

(委 員) 駅から近いことは、仮設図書館の一番の力である。これを生かしてグッと県立への利用者をつかむために、閉館時間を週に1度だけでも延長してはどうか？

例えば、「水曜日は会社帰りに県立図書館に行こう」といったキャッチフレーズを打てるような感じに。今、図書館の魅力を知ることができる人を増やすことができれば、明石公園に戻っても、県立図書館の存在を知っているので、行こう

という気持ちになる。1週間に1日でも、効果があると思う。

出前講座などで学校とのコンタクトをとっていることを活かして、ミニ展示の企画を学校に任せてみるのはどうか？若い人のおもしろいアイデアや違う角度からよい企画を出してくれるのではないかと思う。

他の委員も言われたようにホームページにインパクトがないように思う。

もう少しソフトでインパクトのあるキャッチフレーズを一番前に出せば、くいついてくれる人が増える。本もタイトルが大事であることと同様。ただ、あまりソフトになりすぎても県立図書館のイメージにそぐわないかもしれないのでほどほどに。

(委員) さきほど他の委員の話にもでたが、子ども読書活動推進フォーラムは、兵庫県が文部科学省から4年間も委託を受け行ってきているが、そのあたりについてはどうか？

(教委) 追加資料として今年のチラシ、資料を配布しました。今年は、市町立図書館を含めた各地域の図書館に企画・立案してもらっており、実施の直前まで内容を協議している。

播磨東が終り、来週に播磨西、そして但馬と続き、最終12月まで行っていく。

今年の特徴として、どの年代をターゲットにするかという点で、全ての地区で「ブックスタート（幼児期）、小学校低学年」ということになり、それを反映させた講師、内容となっている。

フォーラム参加者も、図書館関係、学校関係者が多く、実施した播磨東では80%以上を占めた。そういう方々に各現場に持ち帰り広めてもらう、という流れができていたことが4回目の特徴で、日頃の図書館活動にも現れていると思われる。

(委員) 兵庫県はフォーラムを地域ごとに5箇所で行い、それぞれ4年間で、色々な活動、(例えば)「子ども司書」講座といった、子どもが司書となって自分と同じ世代の子に本を選んだりサービスする職業体験的な活動などが地元の図書館と密着して育ってきている。こういったことは、すぐに成果が現れないかもしれないが、子ども時代の図書館との結びつきとして何かしら残るものがあると思う。

県立図書館がもっと表に出していくべきと思う活動の1つに「調査相談」がある。

「レファレンス」という言葉が使われているが、これは図書館用語で、一般にはイメージが湧きにくい。「相談」という言葉を使って、「研究・調査相談」活動をアピールしていくべき。

大学にいる研究者であれば、専門資料を手に入れやすいが、一度在野に出てしまえば、なかなか文献にあたることができない。そういう場合の窓口が図書館であると思うが、市町立図書館の窓口では、すぐに対応することは難しい。この県立図書館なら国会図書館所蔵資料にあたることができたりするが、それが外部に見えにくい。

すべての分野ということでもなくとも、例えば弁護士会にターゲットを絞って「こんな相談にのれます」といった、県立図書館ができるサービスをアピールしてはどうか。

郷土資料に関する相談についても、専門の司書がおり、資料も揃えてレベルの高い相談を行っている。

県立図書館がやらなければいけないことを、あっさり「レファレンス」と言わず、「研究・調査相談」という形で表に打ち出す方がよい。

この活動は、すぐに100人200人と利用者が大量に増えるわけでないが重要である。

(委員) 仮設が駅から近い立地にあり露出が高いことを利用すれば、これまで県立図書館を知らなかった人たちに県立図書館と新たに関わる機会を増やすきっかけをつくっていく。これは、大きなメリットである。

現状、仮設でも場所が狭いゆえに資料を厳選され、おもしろい展示をしている

のに、初めてフラッと入って来た人には、奥におもしろいものがあることが見えない。

これには、ホームページで案内していくことも重要であろうし、入ってきた人に対して、どこにどんなコーナーがあるかなど図書館の内容がわかるような案内をして、県立になじみを持ってもらえれば、公園へ戻ったときにも来館者増につながると思う。

図書館の機能面でいえば、アウトリーチ（学校サポート、出前講座）に加えて、地区別研修会の中で情報交換会を行ったとあるが、これは貴重な場であり、県立図書館が率先して担うべき機能だと思うが、ここで出た問題点にはどのようなものがあり、どんな解決策がでたのか。

(図書館) この研修会では、事前に各市町立図書館から抱える課題を出してもらい、それぞれに考え協議する。現場の司書たちの具体的な話を聞き合える貴重な場になっていると思う。内容としては、例えば、苦情対応や資料の見せ方といったものがある。

(図書館) 補足として、この研修会では、各館の事業取り組み状況、計画についてや、効果的な展示の方法、苦情対応の仕方、特に今年度は障害者対応について、といったテーマがでた。

こちらで答えられない専門的な内容については、対応窓口を探すなど相談にのり解決に向かえるようにしている。

(委員) 資料5ページにある④学校サポート講座の中に「効果的な情報検索の方法」と「論文作成のためのテーマ設定」、「論文作成のための情報収集と整理法」がテーマとしてあるが、これらは内容的に違うものなのか？課題研究的な内容か？受験対策的な内容か？

(図書館) 図書館は、論文の書き方を指導する立場にはないので、あくまで、論文作成のための情報収集の仕方、検索方法を提示する内容となっている。受験対策ではない。

(委員) 検索方法ということは、パソコンを使っての講義方法か？紙面での説明か？

その中で、図書館の活用の仕方、市町立図書館を経由して県立の本が借りられるということなども伝えているのか？

(図書館) 講義の仕方としては、パワーポイントを使って、資料を探す方法を提示している。

インターネットを使っての検索方法も伝えるが、本を使って情報収集する方法も提示する。

図書館の活用方法については、市町立図書館から学校へ取り寄せる経費を考えると、直接、県立図書館から学校へ無料で託送する手段を勧めている。

(委員) 資料3ページの「館内利用者数」についてだが、隣接する明石市立図書館が移転後は、まず利用者の増加は見込めないであろう。

5、6年前から外にでる活動を大きな柱として活発に行っていることから、カウント方法について、考えるべきではないかと思う。

そうすれば、館内利用者が減っていても、館外活動参加者分でその減少分が多少相殺されるのではないか。

「館内（来館者）」と「館外（参加者）」との合計を「総利用者数」として表示すべきだと思う。

(委員) 図書館としての活動内容の全体をを正しく見てもらえるようにするためにも集計に反映させていくべきだと思う。

(3) 県立図書館仮設図書館の開設状況等について

次長より資料3、追加資料に沿って仮設図書館開設状況等を報告

○ 委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) 満足度については、仮設の条件では「満足」と答えている方、そもそも仮設な

ので不便を承知の上で「不満だ」と答えている方がいると思われる。

無回答の方が多いのは、仮設だからあまり「不満」と回答するのも・・・という気持ちがあったのではと思われる。不便を承知の上でも利用者の多くが満足という回答が多いのはありがたい傾向ではないかと思う。

(委員) 仮設図書館開館後、短い期間でアンケートを実施し、運営に生かそうとされたのだと思うが、「職員のサービスがどうだったか」という質問項目を設けるべきだったと思う。

自由意見欄で親切だったという意見もあるが、図書館司書の人的サービスという観点をもっと表に出てこないといけない。アンケート項目に入れることによって、「外部からどのように見られているのか」ということを図書館側が活かしていかないといけない。特に、仮設図書館は、入ってすぐがカウンターで、この配置は、すごく便利であるが、そこにいる職員2人の役割が重要になる。いつも笑顔で、営業サービスマンのように積極的に接していないといけない。

ただ、図書館職員はそのような訓練を受けていないので、どうしても、「来館者から貸出などの要望があれば対応する」という待ちの状態になっているように思う。

海外の図書館と日本の図書館とで一番異なるのはカウンターの職員の愛想の良さである。建物に入った途端に「May I help you?」と聞いてくれるので、「何でも私に聞いて下さいよ」という雰囲気がある。

確かに海外では、インフォメーション、貸出カウンターなど機能が分かれているが、日本は1つのカウンターで全部をやらなくてはならないので職員の役割、負担も大きい。

特に、仮設図書館の間は、1階カウンターが顔になるので、職員にとってもストレスがかかるが、研修を実施するなどしてカウンターでの対応向上に努め、来館者が案内してもらいたいという気になるような職員育成をお願いしたい。

1階カウンター職員のストレスは大きいので、(メンタルヘルス)研修等で軽減を図ることも大切だと思う。

(4) その他報告事項

ア 耐震補強工事について

次長より資料4に沿って耐震補強工事について報告

○ 委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) 当方の団体へ来られるお母さん方は「子育てに、本がとても大事」という考えをもっておられる。そのため、たくさんの本を読んであげようという気持ちがある。ある母親が、子の就学までに1万冊の本を読み聞かせるという目標を立てていたが、『大きなかぶ』の作品の中で、「おじいさんがかぶを引っ張って、おばあさんがおじいさんを引っ張って・・・」という繰り返しの部分を、1万冊読むには時間がかかり大変ということで、省いて読んでいた。

「絵本やお話の読み聞かせが大事」という意識をもつことに加えて、その中身をしっかりと読み聞かせてあげることも大切だと思うので、耐震工事後の図書館に親子読書室ができた時には、そんな読み聞かせの大切さをソフトに教えてあげられるような図書館であれば嬉しいなと思う。

イ 明石市立図書館休館、移転について

次長より休館チラシ等により説明